

第 1 回神戸市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

【開催日時】 平成28年6月3日（金） 午前10時～12時

【開催場所】 神戸市役所1号館12階1121会議室

【出席者】 委員 35名

【議事（主な意見交換の内容）】 以下のとおり

○委員

- ・最終的に自家用車以外の公共交通がどういうふう to 増えるかという視点があったほうがいい。
- ・役割分担をこうして、こうしたときに、その結果が役割分担、思ったとおりになるかというとならなくて、自家用車に一層依存してしまうという可能性は常に留意しておいたほうがいい。

○委員

- ・目標に一つ重要な視点が抜けているのではないのでしょうか。公共交通網のrobustness とよく言うんですが、災害も含めて、しっかり支えるという側面が出てきていないように思います。

○委員

- ・神戸市全体の都市構造をこの10年間どう考えていくかということで、特に、住宅地である北神地域、西神はオールドニュータウンと言われている中で、それを市全体の中でどうしていくかという、そういう前提がない中で、交通だけというところではない。
- ・都心、三宮の話が出ていますけれども、ここを人と公共交通優先の空間と、三宮クロススクエアでやっていくという、理念は非常にすばらしくて、ぜひともこういったことは必要だと思うんですが、ここまで行く過程が、やっぱりハードルが高いことがいろいろあるかと思えますけれども、どういった課題をクリアしていかないといけないかということも具体的に述べられていると、非常にわかりやすいのかなと思います。

○委員

- ・地域の人が便利で価値が高いと感じて利用されている路線につきましては、やはり市民の目線で調整していただきたいというふうに考えております。それがなければ、やはり地域の衰退がどんどん進んでいくのかなというふうに感じておまして、やはり交通事

業者としても、市民の皆様に便利なサービスを提供していくという共通の理念はあると思いますので、そういったお互いが切磋琢磨できる環境を、行政の方には支援いただきたい。まずはマイカーから公共交通へ転換をしていくというふうな理念のもとで、行政のアシストをお願いしたい。

○委員

- ・公共交通ネットワークの取り組み方針に書かれるところになりますと、それぞれのネットワークごとに記載されている状況であり、人の移動を考えますと、一つのネットワークで移動が完結するというようなものではないと思われまので、各ネットワークの間のつなぎをどうするかというのをもう少し議論いただければありがたいなというふうに思います。それから、その中で重要になるのが交通結節点だということになると思われまので、この交通結節点のあり方とかにつきましても、議論が深まればいいなというふうに思いました。

○委員

- ・東西交通を担っている幹線鉄道を軸にして、南北に面的にどうやって広げていくのかなという議論かなと思ひまして、それを担うのがこの幹線交通ネットワークなり、地域コミュニティネットワークで、このあたりはもう路線バスですとか、コミュニティバスとか、タクシーとか、割と自動車交通に依存するところが大きくて、そういった自動車交通をどうやって魅力高くするかといひますか、定時性なり、速達性なり、その辺を高くしていくかというのが大事なのかなと思ひました。もっともっと定時性、速達性、利便性あたりを高めていけば、まだまだ便利になっていくのではないか。
- ・インバウンドが増えていひますので、神戸市内も観光地はすごく魅力的なところはたくさんあるかと思ひますので、観光で来た人をどうやって便利にその観光地に誘導していくかというあたり、もっと具体的に何かアイデアがあればいいのではないか。

○委員

- ・三宮の中心部のクロススクエアについて、鉄道からおりてきて、それからバスでおりて、すぐにタクシーに乗りたい。そういったアクセスができるような形というのを、やっぱり立体的に考えていただきたい。平面的なことだけで考えてしまいますと、どうしても無理があるのかなと、そんなふうに思ひます。

○委員

- ・供給者サイドでまとめてしまっているというのが実情かなというふうに残念ながら思ひ

ていまして、一番大事なのがご利用の方がこういったことをすれば本当に公共交通に乗りたいと、それで移動したいと思えるかどうかだと本当に思いますので、逆の目、逆から光を当てていただいて、ご利用者が、この施策をぜひともやってほしいというふうなところで、光を当てて、その中で事業者がどこまで汗がかけるのかと、営利事業でございまして限界があるかと思えますけれども、どこまで汗がかけるのか、汗がかけないところはどこまで公として負担してでもやるべきなのかということと、本当にご利用者の皆様が、これでじゃあ乗ろうと、動こうと思っただけなのかというような目線で、逆から光を当てて、これをブラッシュアップしたら、何かすばらしいものになるなど感じた次第です。

○委員

- ・前回の準備会のときにも申し上げたんですが、高齢化が急速に進んでいるという中で、また神戸の特性としての南北の坂道が多いということで、この南北の交通が実は非常に神戸は十分ではないということも申し上げました。このことが、塩屋の件では載っているんですが、そのほかの件でも、やはりこれはぜひどこかに書いていただいて、そういう方針で臨むんだということをちょっと示していただけたらいいんじゃないかなというふうに思っております。

○委員

- ・利用する立場から言いますと、いろんな交通手段を使って回遊できるっておっしゃるんですけれど、ややこしいというところもあります。だから、しっかりと表示というか、情報をしっかりとわかるようにしていただきたいということと。

○委員

- ・インバウンドで、個人で動かれる方が非常に増えているという中で、バスの乗り場がわからないとか、電車の乗り継ぎ、複雑に入り込んでいるので行き方がわからないとか、そういったご質問が非常に多い。今回、都心での「人と公共交通中心の賑わいあるまちづくり」の推進という中で、やはり外国人旅行客目線でのそういった利用しやすい環境づくりみたいなことも一つ課題として入れていただけたらなということと、多言語での表記でありますとか、観光地までの行き方だとか、主立ったところでいいと思うんですけれども、観光地までのアクセスなんかが、例えば、何かすぐぱっと検索ができるような形で情報提供みたいなことができたらいいなと思っただけで、外国人観光客目線に立ったバスのわかりやすい表記であるとか、わかりやすいその検索の仕方だとか、そういっ

たことが提供できたら、より使いやすいなと思います。

○委員

- ・観光で海外から来られる方ということになりますと、やはり関空から、もしくは新神戸からのアクセスということになってくると思いますので、そのあたりを視点に取り入れてはどうかと思います。

○委員

- ・まちづくりと交通網計画ということで、立地適正化計画と網計画というところの議論を、生活者の目線で交通の維持ということとあわせて、拠点をどういう形でつなげるかというところを議論していただければと思います。

○委員

- ・こういう大きな協議会だと、なかなか踏み込んだ意見というのは出にくいと思いますので、どういった形で声を拾っていくかというのを少し検討されたほうがいいのかなというふうに思いました。
- ・短い期間で解決できる問題ってそんなに多くはないのかなというふうに正直思っております。恐らく長期にわたって検討してくというような話にもなってくると思うんですけども、検討するというだけではなかなか進まないの、どういったふうに進んでいくかといったところも踏み込んで、今後、議論していただけたらと思います。

○委員

- ・まちの活性化を図って、まちをにぎやかにしていくということについて考えると、人口が増えないということを前提とするならば、外国人客をいかに誘致していくか、誘客していくかというような話になるかと思いますが、そこで、現状の住民の足と上手いことリンケージをとった中で、今後、具体的な施策をつくっていただきたいと思います。

○委員

- ・37年を目標にされた計画だということなのですが、37年の理想にされているのが何なのかというのがもう一つよくわからないかなという感じがしました。議論を伺っていると、10年先の話の議論もあれば、明日の話もある。この10年間で何をするのか、将来を見据えて、この10年間で何をするのか、それを明確にするためには、37年の理想の姿と現実の分析みたいなものが要るのではないかと思います。
- ・公共交通分野としての役割と福祉としての役割、観光としての役割、学校教育の話もあるかもしれませんが、そういったところの役割分担を明確にしているほうが議論

としては熟していくと思います。

○委員

- ・観光の話が先ほどから出ていましたが、金沢では市街地の観光は大体バスとタクシーが移動のメインで、非常にわかりやすいコンパクトなパンフレットやいろんな料金体系があり、そういった他の事例も紹介していただくとわかりやすいと思います。

○委員

- ・三宮のクロススクエアの関係で、大きい道路を通行止めにするということで、今ある交通量を迂回させることになることにあわせて、交通総量を少なくしていかないかなんかと思ひまして、そうなれば、やはりマイカーに取ってかわる公共交通、少なくともマイカー利用率の高いような西区とか、北区とか、そこから三宮に来るにはマイカーじゃなくて、公共交通のほうがいいなという計画も盛り込んでもらったら、最終的な三宮の構想をそこにもつなげていけるかないうことを感じました。

○委員

- ・いろいろな立場からのご意見がありましたが、やはりどのように協調していくかというところが特に重要なところでありまして、最終的な目標は公共交通を維持して市民のためになる。自家用車を抑制して、公共交通にシフトしていただくというところの目的について共有したい。今後、いろんな課題も出てくると思いますけれど、その目標がはっきりしていれば何とか解決できるのではないかと。

○委員

- ・一般的な計画だと、この計画の数値目標はこんなもんですとかっていうのがでてくることです。数値目標を明示することのメリット・デメリットはあるわけですが、このあたりは、これからの議論だと思うのですが、私は、別に数字目標ばかりである必要性はないと思っています。先ほど市民目線の話が出ていましたが、数値目標が実現できたら、市民にとってどんなに便利な交通体系になっているのかっていうのが、市民の方が普通の文章を見てわかるように検討していくことが大切かなと思っています。そしてそのときに、公共交通だけではなくて、自家用車の話もあるし、自転車、歩行者の話も入ってくる。そのあたり、交通全体としてという話を忘れないようにということが非常に重要だと考えます。